

佳作

しあわせとはなんだろう

荒川区立第三瑞光小学校二年

阿保 奏汰

やなぎ田先生こんにちは。

ぼくは、手じまけい三ろうさんが書いたどうぶつシリーズがすきです。はん画みたいなえと、いろいろなどうぶつがどんなふうにがんばって生きているか分かりやすく書いてあるからです。

「きたきつねのしあわせ」を読む前、ぼくは、だい名のしあわせとはなんだろうと、思いました。本を読んでみると、しゅじんこうは、きたきつねのおじいちゃんでした。きたきつねは5年しか生きられなくて、おじいちゃんはもうすぐ自分がしんでしまうから、兄弟やそだてた子どもにあいに

いくお話です。おじいちゃんは子どもとまごにはあえたけど、兄弟にはあえませんでした。

もしぼくが、もうすぐしんじゅいそうだったら、かぞくといっしょにお出かけして、一ばんの思い出にしたいです。五年しか生きられないきたきつねは、かわいそうだと思います。

ぼくがすきなセリフは、
「自分の一生はしあわせだった。生きるのなんてすばらしいことだろう。」

です。これは、おじいちゃんがさいごしんじゅいた後、くもになって言ったセリフです。それを読んで、しあわせは生きることだと思いました。やなぎ田先生はしあわせはなんだと思いますか。ぼくは、NHKのおかあさんといっしょの「しあわせ」という歌を聞いています。その歌を聞くとい

ろいろなしあわせが分かります。たとえば、空が
はれた、友だちができた、おべんとう、とかです。

やなぎ田先生もこの本のシリーズを読んでどう
ぶつのことをすきになってもらいたいです。